

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和5年7月分）

【製造業】

○製造業は、5月の鉱工業生産指数は前月比8.0%上昇となった。ヒアリングでは、大手自動車メーカーの増産により受注が増加しているが、原材料の高騰により、利益は減少しているとの声や、中国の景気悪化懸念により生産調整を行っているとの声、更には、大手自動車メーカーが発表したEVの新しい生産技術「ギガキャスト」について、今後の対応を検討しているとの声が聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、5月の鉱工業生産指数は、繊維工業及び家具で上昇した。ヒアリングでは、コロナの5類移行により、海外からの受注が増加しているとの声や、販路拡大や新商品の開発が奏功し、売上・利益とも増加しているとの声が聞かれた一方で、依然として原材料や人件費が高騰しているが、価格転嫁が困難なため利益が減少しているとの声や、コスト削減により何とか利益を出しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、6月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲21.1%となった。ヒアリングでは、生産性向上を図るため、省エネタイプの設備を導入したとの声や、生産工程の自動化を進めているとの声、また、インボイス制度に対応したシステムの更新を行ったとの声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、6月の販売額は、ドラッグストア及びコンビニで前年同月比で上昇し、全体で同0.3%上昇となった。ヒアリングでは、スーパーの売上はコロナ前の約2倍と好調であるとの声が聞かれた一方で、物価高による消費者マインドの減退や猛暑の影響で売上が減少しているとの声や、なかなか価格転嫁ができず収支が悪化しているとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、6月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲17.3%、▲17.8%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、外国人観光客の人数はあるものの日本人は少ないとの声や、宿泊客数が増加する中、人手不足により、稼働率を上げたくても上げられないとの声が聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、6月の制度融資実績は、金額は5ヶ月連続で増加した。金融機関からは、ゼロ融資を長期運転資金として借り換える事業者が多いとの声や、倒産がちらほら発生しているため、今後の動向を注視しているとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、6月の有効求人倍率は1.56倍と22ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、コロナの規制緩和により外国人労働者の採用は容易になったが、日本人労働者の採用は困難な状況が続いているとの声や、人手不足により納期遅延となる恐れがあるとの声、人手不足の状況下で短納期の受注が増えており、配置転換により対応しているとの声が聞かれた。

【景気動向】

5月の景気動向指数（一致指数）は前月比3.3ポイント上昇、6月の中小企業の景況感と同▲6ポイントとなった。